



2021年8月5日 第2444回例会
8月第1例会



RIテーマ「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

本年度会長テーマ「新しい風と微笑みを」



「会員増強・新クラブ結成推進月間」「平和月間」

◆ 会長時間 ◆

梶本会長



8月は会員増強・新クラブ結成推進月間です。当クラブは、平和月間でもあります。日本のロータリー100周年実行委員会ビジョン策定委員会が作成したビジョンレポート

2020の中で『「会員増強」を一言で表現すれば「仲間を増やすこと」だと考えられます。英語で「仲間」はFellows。このFellowsはロータリーの中核的価値観のひとつ「親睦（Fellowship）」（「仲間としての友情」の方が適訳）に含まれます。「共に、奉仕の理念（理想）を信じ、ロータリーの諸活動に積極的に参加する「仲間」を増やすこと」。そのように会員増強を捉えれば、誰もそのことに反対する人はいないのではないのでしょうか」と記載されています。

当クラブにおいては現在会員数87名で、今年度最低2名以上の純増を求められています。当クラブに相応しい方の情報を「Each One, Bring One」。87名全ての会員が情報を共有し、新会員入会に向けて協力をお願いします。

● 会務報告

松岡(輝)幹事

- ☒ ロータリーレートが8月から1ドル110円（7月まで111円）に変更になりました。
- ☒ 例会終了後、4階「カメリア」において7月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

● 委員会報告

※ プログラム・出席委員会

出席報告 片山委員長

本日（8月5日・木曜日）

会員数	87名	出席者	69名
欠席者	18名	ご来客	0名
ご来賓	1名	ゲスト	0名
		計	70名

4週前の例会（2021年7月1日・木曜日）

出席率 100%



※ SAA委員会

北村委員長

Zoomの閲覧方法及び

例会場での注意事項について

SAA委員会は梶本会長の例会開催方針及び集合・会合の開催に関する自治体からの通知などを鑑み、例会開催方策として、Zoomというパソコンソフトウェアを利用したWeb例会の開催を準備しております。

会員の皆さまの中にはZoomというソフトウェアに馴染みがない方もおられようかと思えます。SAA委員会では簡便なものではございますが「Zoom操作マニュアル」を準備し、会員の皆さまへメール配信させていただきたく考えております。

「メールよりも紙で確認されたい」会員の方向がございましたら、本日20部ほど印刷物を準備いたしましたので、事務局受付カウンターにて資料を受領いただけますようお願いいたします。

● 会員記念日

 8月お誕生日おめでとうございます。

(11名)

三浦君	松岡(輝)君	川妻君
尾形君	松岡(幹)君	武田君
木村君	村重君	山木君
加藤君	川村君	



● スマイルボックス SAA 大植副委員長

森信君 (自主申告・金一封)

7月23日、長男に第二子で待望の男の子一秀(かずひで)が生まれました。私が長男につけた「秀」の文字を家族で選んだようなので、会社創業者である秀之助から数えて6代目社長を目指して、健やかに育ててほしいと思います。ご報告方々、出宝させていただきます。

大植君 (自主申告・金一封)

先週は、大変拙い卓話で失礼いたしました。

まだまだ改善の余地のある不出来な内容でしたが、全く予想外なことに、卓話後2名の会員の方から「社内で活用したいのでレジュメを提供してほしい」というお申し出をいただきました。

卓話の中での質問にご回答いただいた、梶本会長をはじめとする執行部の皆様、無茶振りであったにもかかわらず、機知に富んだ素敵な回答の数々どうもありがとうございました。皆様の今後益々のご活躍を祈念しまして、スマイルボックスにご招待申し上げたいと思います。

全会員

明日8月6日、76年目の原爆の日を迎えます。原爆死没者の霊を慰め世界の恒久平和を祈念して、平和記念式典が挙行されます。

広島西ロータリークラブ創立50周年記念行事として改修した「多言語説明板」が「真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心」として全世界へ発信してくれることを祈念し、全員出宝をお願いいたします。

● 卓話予告

日時	テーマ
8/26(木)	会員組織部門 強調プログラム

■ 卓話



～平和都市ヒロシマ復興・建設の歴史(その2)～
「真の平和都市その理念と使命、今こそ世界へ」

元広島西 RC 会員
濱井 順三氏

■ はじめに

本日は前回の「歴史と今」の第2弾として、「真の平和都市、その理念と使命」について考えていく。

知る人も少なくなっているが 原爆後の1947年廃墟の中で「苦悩の極地として戦争を根本的に否定し、最も熱烈に平和を希求する」と立ち上がり、「この地上に世界の平和を建設しよう」と世界に宣言したのが第一回の平和宣言。その後それをもって、国の法律「広島平和記念都市建設法」の制定を働きかけ、難しい状況下1949年に成立が実現する。平和都市ヒロシマの奇跡的な復興・建設はここから始まったと言える。

そして4分の3世紀を経た今日、あの暗黒の瓦礫の街は私達の目の前に緑豊かな美しい都市として甦っている。近年、その広島の復興は注目され、廃墟からの復興の報道や出版が多く見られる。広島を訪れた外国人も、誰もがその復興ぶりに驚くという。広島は山川海島と自然が揃っていて都市計画が素晴らしく、コンパクトシティで空が広い。絵になる所が数多いの街で世界一だともいう。われわれ広島人はそれほどは誰も思っていない。そこで私はその検証の意味で今の広島を写真で記録しているが、本当に素晴らしい絵になる街だと実感している。

ここまでは、ヒロシマ復興の嬉しく明るい側面であるが、反面、専門家の中には平和都市としての建設という面ではどうだったのか、との指摘もある。平和都市としての理念や使命、活動などのソフト面を指しているものと思われる。言われてみると、我々自身、その理念や使命についても、よく分かっていないことに気がつく。広島でも被爆者や戦争を知る人は少なくなり、

時代と共に平和が当たり前になった日本では平和に対する切実感は薄れ、風化、無知、無関心の風潮が広がっており、平和や平和都市について真剣に考えることも日頃はほとんどなくなっている。

そこで本日は、その原点と考えられる「第一回平和宣言」が、原爆を体験した者の心の底からの叫びと願いが凝縮、集約されているものであり、そこから理念や使命など平和都市としての基本となることの本質について検証し、われわれ広島市民が理解、認識し自覚することから始めることとしたい。（*参考文献「原爆市長」浜井 信三著）

■第一回 平和宣言

原爆から2年後の昭和22年、住む人影のない街に2,500人の人が集まってきて開催された平和祭で世界に向かって発せられた。それには、原爆の惨苦と罪悪とを最も深く体験したものの心の底からの真の叫びが凝縮されている。これこそが、最も純粋なヒロシマの心の本質であり、ヒロシマの平和の理念や使命の原点であると考えられるものである。最初にその検証から始めることとして、先ずその中からキーワードとフレーズを抜粋した。

■キーワードとフレーズから主旨の内容を要約

〔戦争放棄〕 惨苦と罪悪の戦争を根本的に否定し、地上より抹殺。

〔世界平和、人類平和〕 最も熱烈に平和を希求する。

〔人類、文明と共存できない核兵器廃絶〕 恐るべき原爆（核兵器）は人類の破滅と文明の終末を意味する。

〔思想革命、新しい思想〕 恐るべき兵器は恒久平和の必然性と真实性を確認せしめる「思想革命」を招来せしめた、これこそ即ち絶対平和の創造（平和の理想の新しい世界文明の創造）であり、それは新しい人生と世界の誕生をもたらすものである。

〔人類を救う新しい哲学思想の発見〕 われわれはこの真理と道を発見した。

〔ヒロシマの理念〕（世界平和創造の新しい平和思想）この絶対平和ヒロシマの新しい真理と道へ。

〔世界の平和の理想へのさきがけの使命〕 全身全霊で邁進し新しい文明へのさきがけとならなければならない。

■広島平和記念都市建設法

この法律は原爆から生き残った人達の強い願いと懸命な働きによって、当時のGHQの連合国軍最高司令官マッカーサー元帥の賛同をついにとりつけ、国会の賛同が得られない状況が一転し、昭和24年国会の満場一致での可決成立が実現している。この中にも平和都市建設の理念が記されている。

全市が壊滅、財源がない状態の中、この法律によって、補助金と国有地の払い下げ等の特別措置により、復興の希望の灯火、救世主となり平和都市としての建設が始まっていった。

■第一条の条文

【この法律は恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設することを目的とする】と記されている。

この法律の最も大きな意義は、世界平和の象徴として広島市を建設することが国の意志として明記されていることである。広島市の市といえるものであり、ヒロシマの心が明記されており、市民に勇気と希望を与えるものとなった（「原爆市長」に記載）。この法律は現在でも生きている。

■まとめ

本題に戻って、今回「真の平和都市とは、その理念と使命とは」について検討を行ない考えてきたが、これまで一般的に言われている戦争放棄、核廃絶、世界平和などの各論は理念として当然含まれる。今回、特に注目したのは「恒久平和を地上に建設する」のフレーズと「新しい世界文明のさきがけとなる」のフレーズである。前者は学者が言っている「トランスナショナル」（国境、民族、一国の利害を超える意味）という新しい平和哲学思想の概念に合致するものであり、後者はその新しい平和概念思想のさきがけとなるという使命を示すフレーズである。

これからの世界で人類が直面する危機や、それを超える新しい思想の重要性に関して大変参考になる二人の哲学者の言葉を紹介する。

■参考になる哲学者、歴史学者の視点

日本の代表的な哲学者・梅原 猛氏は言う、「世界の現状について、今人類全体が非常に危険な状況にあり、片方でグローバリズムが、片方で国家主義が世界に蔓延している。このままでは「人類は滅亡する」ということが現実のものとなってきている。また日本の直面している現実的な危機として、戦後経済発展ばかりに目を奪われて大切なことが忘れられている。例えば、憲法9条には未来の人類への希望が含まれているが、その理想を否定したら日本はいわゆる「普通の国」になってしまう。

今、日本や世界に必要な思想や哲学について、西洋が生み出した近代文明は既に行き詰まっている。西洋の人間中心主義は科学技術を発展させたが、「自然は征服できる」という思想では人類はもう救えない。近代文明を打開する思想は自然と共生するという思想のある東洋、あるいは日本に潜在しているのではないかと。

政治学者であり歴史学者でもある米国ハーバード大学名誉教授の入江昭氏は「トランスナショナル史観の研究から今世界はグローバル化とナショナリズムの流れが混在している情勢にある。グローバル化の中でのナショナリズムがかつてのような国家間の深刻な対立を生じないようにするためには、国境を超えた、一国中心主義を超えたトランスナショナルの人権思想が必要であり、世界が真剣に考えていかなければならない大きな問題である」と思想革命の必要性を提起している。

この二人の哲学者の言葉は、今回のヒロシマの平和の問題について言っているのではないかと錯覚するほど全く共通するものである。行き詰まりの危機的状況から人類を救うためには「国家主義を超えるトランスナショナル思想」や日本古来の「共生思想」など人類次元での新しい思想が重要であることを提言している。

世界の危機的状況の要素として挙げていることを列挙してみると、国家主義・覇権主義の限界、西洋文明の行き詰まり、国境を超えた一国中心主義を超えたトランスナショナル思想、今こそそれが必要な危機的状況、西洋の人間中心主義の限界、新しい文明の創造、等々。

これを参考にして「平和宣言」のフレーズを見てみると、主旨は学者の今の世界の危機的状況に対する視点と全くと言っていいほど同じである。ヒロシマは既に75年以上前に世界、人類次元の思想革命を説いていたことが分かったと同時に、理念としても中心軸としてきちっと位置づけられなければならない重要な項目であることが再確認することが出来た。その上で、「平和都市ヒロシマの理念、使命」について改めて考えてみると、ヒロシマの大前提である戦争放棄や核廃絶、等の各論は当然基本としてあるが、個々を独立的に唱えられるのではなく、まさに今回の「トランスナショナル平和思想」と「新しい文明のさきがけとなる」使命を意味する概念を中心軸として、一体化された理念にすることである。例えて言えば、個々のパーツを並べたものでなく新しい思想革命の中心軸設計による一体化された理念こそが、これからの時代の真の「ヒロシマの理念、使命」と言えるものとなるのではないかと。

■おわりに

「真の平和都市その理念と使命」について改めて考えてきた結果、戦争放棄、核兵器廃絶、世界平和などの各論は当然ヒロシマの理念として挙げられるものであるが、今回、特に「恒久平和を地上に建設する」と「新しい世界文明のさきがけとなる」のフレーズに注目した。これは学者が言うところの、これまでの文明の行き詰まりによる世界の危機を救うため、新しい思想革命としての「トランスナショナル思想」を意味するフレーズである。そして、各論が個々に独り歩きするのではなく、トランスナショナル平和思想と世界のさきがけとなる使命の二つの思想革命軸を中心として各論が一体化された理念にすることが「真のヒロシマの理念、使命」となるべきものであることが分かってきた。

現在で考えると最も重要な思想革命の大事な部分が、いつの間にか次第に薄れ、各論だけが個別的に唱えられるようになってきているケースも多い。このように考えて、平和都市という概念についても振り返ってみると、単に平和都市だったり、原爆被爆都市になったり国際平和文化都市とされたり、コンセプトの焦点が定まってお

らず一貫していないことも見えてくる。各論が都合の良いように独り歩きしている感が強い。各論がパーツとして個々に並べられているのではなく思想革命設計での一体化された理念とすることが重要となるのである。

特に世界が国家主義の壁による人類の危機が現実のものとなってくると言われる時代、「トランスナショナル平和都市」であり「世界平和のさきがけ都市」という表現が分かりやすいと思うが、この概念が「真の平和都市ヒロシマの理念、使命」として外せない本質であると考えられる。この際、平和都市全体の全ての面での再検証が必要である。具体的には、施設面、活動面、その仕組みづくり他あらゆる分野でトランスナショナル理念での、発信、広がり、共有化などの活動となっているか否かが問われることになる。これまでの多くの活動の中には既にトランスナショナルを見据えた活動も多くあり、ノーベル賞を受賞したものもあるが、殆どが民間の組織や団体である。広島市と市民が遅れているのである。

特にこれからの時代、平和の要素の各論だけでは限界があり、活動面でも「トランスナショナル理念」に基づく活動が強く望まれる時代となる。この「真の平和都市ヒロシマの理念、使命」が広く世界に響くようになる時、世界の平和のメッカ（発祥の地、世界の中心の意味）としての真の「平和都市ヒロシマ」になることができるのである。今こそ世界のさきがけとして邁進していかなければならない。

終わりに、このように考えてくると、RIはヒロシマが見習わなければならないトランスナショナル理念の最たる先進的な仕組みの組織であり、平和の理念でも共通している。ロータリーの存在意義に改めて感銘している。「トランスナショナル平和都市」たらんとするヒロシマの広島西RCはRIにおいても必ずやリーダー的存在になるものと確信する。私も、これまでにも多くの国を超えた事業、活動に取り組んできたこのRCに在籍したことを誇りに思うとともに、皆さんもその自覚をもって益々活躍されることを期待し、お願いいたします。



わたしの大切な逸品 金本 善行



昭和52年（1977年）10月の結婚を前に、結納返しとして貰った腕時計です。その時以来44年間、いつも私の左腕で時を刻んでくれています。

これからも末永く一緒にいたいものです。



広島西RC

検索



例会日・木曜日 12:30~13:30

例会場・ANAクラウンプラザホテル広島

会長 梶本 政明

幹事 松岡 輝明

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78

リーガロイヤルホテル広島13F

TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870

E-mail: hwrc@godorc.gr.jp

作成・会報雑誌・広報委員会